

平成24年度臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：歯科麻酔科
研究期間：2012年4月～
研究課題名：心臓移植患者の歯科的管理に関する検討
研究課題の概要及び成果： 目的： 心臓移植待機患者のうち、各種内科的・外科的治療に反応しない重症左心不全に陥った患者は、補助循環の一種である左心補助人工心臓（left ventricular assist device：LVAD）を装着され、左心機能を補助し全身の循環が維持される。LVAD 装着患者の問題点として、高度の抗血栓療法に伴う出血のほか、感染性心内膜炎や LVAD 挿入部位などの感染症をきたしやすいため、感染巣除去を中心とした歯科治療が必要になる。 一方、心臓移植後早期（3ヶ月以内）には、急性拒絶反応の抑制のために、免疫抑制薬や副腎皮質ホルモン薬などを増量することが多く、この時期に炎症性・感染性歯科疾患が発症すると、移植間もない心臓の感染リスクが増加する。したがって、移植前に適切な歯科治療を行い、移植後早期の侵襲的な歯科治療はできるだけ避けるほうがよいとされる。 本研究では、心臓移植待機中に行った歯科治療の内容を調査した。また、移植後早期（3ヶ月以内）に歯科治療がどの程度必要になるかについても検討した。 対象および方法： 対象は、心臓移植待機中または移植後の患者 68 名である。平均年齢は 34.4 歳で、内訳は、移植待機中 60 名、移植後 28 名で、移植前後を通じて歯科治療を行った患者は 21 名、移植後のみ歯科治療を行った患者は 7 名である。これらに対し診療録を調査し、患者背景および移植前後の歯科治療頻度につき後方視的に調査した。 結果： 移植前の歯科治療頻度は、保存修復治療 43.3%、歯内療法 21.6%、歯石除去 35.0%、補綴治療 21.6%で、これらの歯科治療の頻度は移植前後で差はなかった。一方、口腔外科治療の頻度は移植前 36.7%、移植後 60.7%で、移植後の方が有意に多かった。また、心臓移植後 3ヶ月未満に行った歯科治療の頻度は、3ヶ月以降に比較して有意に少なかった。 考察： 心臓移植前後の比較では、非侵襲的な歯科治療頻度に差はなかった。一方、口腔外科治療は移植後の方が多く行われていた。これは、移植前には全身的合併症のために、抜歯が行えなかった患者がいたことが原因で、移植前の口腔外科治療の施行についてさらに検討が必要である。
上記概要・成果に関連する図表等